

2019年(平成31年)3月期 決算 主要な質問に対する回答

Q: 2018年度の実績について総括していただけますか？

A: 2018年度の売上収益は対前年同期比8%増の1兆337億円、調整後営業利益も対前年同期比25%増の1,168億円となりました。特に日本・アジア・オセアニア・北米で新車販売及び部品サービスを中心とするバリューチェーンの双方で売上がそれぞれ100億円以上伸びました。利益面も、部品サービスとマイニング事業の貢献により、大幅に増益となりました。

財務面では、たな卸資産手持日数は、次年度納入予定のマイニング機械在庫増、生産増加に伴う仕掛品の増加、中国にて販売条件を緩めなかったこと等による在庫増を受けて、前年度末比で18日分増加し3,248億円となりました。また、営業債務手持日数は、前年度末比で14日悪化していますが、主として国内で取引先への支払方針を早期化した影響によるものです。この結果、キャッシュ・フローについても、営業キャッシュ・フローは当期利益の増加はありましたが運転資本の支出超過に加えて、法人税費用の支払い増加などもあり257億円、フリーキャッシュフローは560億円、それぞれ支出超過となりました。

Q: 2019年度見通しについて総括していただけますか？

A: 2019年度の市場見通しとしては、全世界の油圧ショベル需要は先行きの不透明感から前年度比5%減少、一方で、マイニング機械需要は前年度比若干増になると見込んでいます。

業績としては、上記の市況の前提で売上収益は9,500億円で対前年度8%減、調整後営業利益は860億円で対前年度26%減、親会社株主に帰属する当期利益は480億円で対前年度30%減を予想します。予想為替レートは想定変動レンジの下限をとって米ドルは100円、ユーロは110円、元は15円、豪ドルを77円としています。予想為替レートの円高影響を除けば、売上収益はほぼ前年並み、調整後営業利益などの利益項目は増益を見込んでいます。

中期経営計画「Connect Together2019」の最終年度にあたり、計画の達成に向けて、バリューチェーンの深化を図り、経営効率を上げ、先進技術開発やIoT関連の研究開発を推進し、これらの施策を遂行する為に必要な投資や間接費支出も、売上収益増加率とのバランスをとりながら進めて参ります。

Q: 建機の需要環境の見方についてもう少し詳しく教えてください

A: 当社の主力製品である油圧ショベルの世界需要は、2018年度の実績は2017年度より6%増の23万4千台となる見込みです。2019年度については、中国・アジア大洋州・西欧等の先行き不透明感のある市場における減少を見込み、世界全体で5%減の22万2千台にて業績を想定していますが、今後の市況次第では2018年度並みとなる可能性もあると考えています。

Q: マイニング機械の需要環境と受注状況について教えてください

A: 当社として「マイニング機械」に区分する、100トン以上の超大型油圧ショベルと150トン以上のダンプトラックの2018年度需要実績は、前年度比で若干増加となる見込みです。特に大手鉱山向け運転質量300トン超の超大型油圧ショベルとダンプトラックについては、旺盛な引き合いを頂いており、2019年度に関しても堅調な状態が続く見通しです。なお、2019年度の当社マイニング売上見通しのうち、油圧ショベルは約5割、ダンプトラックは約6割が受注済みです。